

登録コード	UAA40500	開講年度	2026			
授業題目	フランス語学・フランス文学実践演習Ⅰ				担当教員	鈴木 球子
					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・1時限	
			授業形態	演習		
信大コンピテンシー 非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学					
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				⇔	フランス文学についての専門的知識をある程度身に着けた上で、それを基盤として、自説を構築し、論を組み立てることができるようになります。
	【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				⇔	フランス文学の基礎的な研究方法を、実践を通して身につけることができます。文学テキストと関連する資料を読解し、そこから自分で問題設定をし、自説を展開できるようになります。既存の説を踏まえた上で、資料に裏打ちされた、説得力のある論文作成ができるようになります。
(2)授業の概要	フランス文学の基礎的研究方法を実践的に学ぶことをテーマとします。基本的には「教員による情報提供と解説」と「受講生による読解と発表」を相互に行う形式をとります。17世紀から18世紀にかけての文学作品（テキスト①、②）を扱います。受講生には、文学テキストや関連資料の読解の実践を課します。					
(3)授業計画	授業計画は大まかに以下に示した通りですが、受講者の理解度等に合わせ若干変化することはあります。 第1回：オリエンテーション：この授業のねらいと概要を解説し、参考書、授業の進め方、事前事後学習の方法について説明を行います 第2回：17世紀～18世紀の事典についての解説 第3回：テキスト①の基本情報についての解説 第4回：テキスト①の読解と発表 第5回：テキスト①の解説 第6回：テキスト①に関する資料の読解 第7回：テキスト①に関する資料の解説 第8回：テキスト①についての問題設定とディスカッション 第9回：テキスト②の基本情報についての解説 第10回：テキスト②の読解と発表 第11回：テキスト②の発表の続き 第12回：テキスト②の解説 第13回：テキスト②に関する資料の読解 第14回：テキスト②に関する資料の解説 第15回：テキスト②についての問題設定とディスカッション 期末試験はありません					
(4)成績評価の方法	●以下を総合して判定します。 受講者によるテキスト読解（40％）、受講者の資料読解の実践内容（30％）、受講者による問題設定とディスカッション（30％） *評価割合は、若干調整を行う場合もあります。 ●得点率による評価基準は次のとおりとします。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可					
(5)成績評価の基準	【卓越している】文学テキストと資料の読解能力が高い水準にあり、そこからの確に問題を設定することができ、問題の背景説明が適切になされ、既存の学説を把握しており、それを踏まえた自説を明確に示せていて、それらが総合して、極めて高い水準にある。秀 【かなり上にある】上記の諸能力が、非常に高い水準にある。優 【やや上にある】上記の諸能力が、高い水準にある。良 【その水準にある】上記の諸能力が、一定の水準にある。可					
(6)事前事後学習の内容	毎回の授業の終わりに学習内容を振り返って事後学習の内容を設定します。また、次回の内容につながる予習の指示を行ないます。次の回の冒頭で、前回の事後学習課題と予習について確認します。					
(7)履修上の注意	教材の準備のため、受講生は初回開講日の前日までに教員にメールで受講の旨を連絡してください。メールアドレスは、学務課に問い合わせましょう。 第2回以降の開講日時は教員と受講生で相談の上、設定します。					
(8)質問,相談への対応	授業中に質問を受け付ける時間を十分に設けるとともに、オフィスアワー（毎週木曜日の10:40～12:10）での面談で受講生からの質問に対応する。					
【教科書】	教科書はありません。授業中に使用する資料は、pdfあるいは紙媒体で配布します。					
【参考書】	授業中に紹介します。また紹介された参考書の購入は任意ですが、教員が参考書を貸し出すことはしません。					